



## ◆生育状況について

生育は、昨年より7日程度早い。果実肥大は平年並みとなっている。

## ◆当面の重点作業について

1. 過繁茂になってくる時期なでの誘引・捻枝・摘心を行い、徒長枝整理を行う。併せて枝幹の日焼け防止対策を行う。
2. 定期的なかん水により、健全な生育と、日焼け防止対策を実施する。また、降雨が多い場合は、排水対策を行う。
3. 気温高く・日差し強くなる時期となってきたため、樹体保護のため、日焼け防止対策を行う。
4. 収穫前管理・早生品種の適期収穫に努める。
5. せん孔細菌病の枝病斑が散見される。対策を徹底し感染拡大を防ぐ。※前回情報No.7 参照。
6. ハダニ類の発生状況を定期的に確認する。
7. ミカンキイロアザミウマが増えてくるので、下草管理を実施する。
8. 薬剤散布を適期に実施する。
9. 各品種の除袋を適期に行うと共に収穫前管理を徹底する。
10. もも・ネクタリン栽培日誌を提出していない場合は、早急に提出する。

## 【もも・ネクタリン薬剤防除】

### ◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期：7月3日（金）～7日（火）

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

| 農薬名      | 使用倍率    | 調合量  | もも<br>収穫前 | ネクタリン<br>収穫前 | 病害虫                 |
|----------|---------|------|-----------|--------------|---------------------|
| 展着剤      | 10,000倍 | 10ml | —         |              | —                   |
| モベントフロブル | 2,000倍  | 50ml | 7日        | 7日           | カイガラムシ類・アブラムシ類・ハダニ類 |
| ディアナWDG  | 5,000倍  | 20g  | 前日        | 前日           | シンクイムシ類             |
| ナリアWDG   | 2,000倍  | 50g  | 前日        | 前日           | ホモブシス腐敗病・灰星病        |

3. 散布上の留意事項

- 1) 収穫中・直前等の品種（たまき・なつき・アームキング・サマークリスタル・メイブランド等）に飛散しないよう注意する。
- 2) 「収穫前日」の使用時期は、収穫24時間前までに散布が終わっている事を意味する。
- 3) ホモブシス腐敗病の心配がない園は、ナリアWDGに代えてフリントフロアブル25の2,000倍（水1000ℓ当り50ml）を使用してもよい。

◆品質向上・日持ち・硬度対策について

- 品質向上として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。
- 1. 使用時期：第9回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）
  - 2. 使用資材：調合量1000当り
- 【品質向上対策】※下記より、いずれかを選択。

| 資材名       | 使用倍率       | 調合量      |
|-----------|------------|----------|
| オルガミン     | 1,000倍     | 100ml    |
| ケルパック66   | 3,000倍     | 33g      |
| モーニングシャイン | 1,000倍     | 100ml    |
| 友果        | 500～1,000倍 | 200～100g |

+

- 【日持ち・硬度対策】※下記より、いずれかを選択。

| 資材名  | 使用倍率       | 調合量      |
|------|------------|----------|
| スイカル | 1,000倍     | 100g     |
| カルビタ | 1,000倍     | 100g     |
| カルタス | 500～1,000倍 | 200～100g |

## ◆除袋目安と管理について

1. 生育状況に十分考慮しながら、(高温干ばつで生育は遅れ、曇天多雨で生育は速い) 別記の日程を目安に地色の抜け具合を観察し適期に除袋作業を進める。
2. 除袋時の注意
  - 1) 除袋が早すぎると、無袋のようになり、着色が遅れ、遅すぎると着色せず、軟化が早くなるので、注意する。一般的な桃は、下記の図1を参考にし、白っぽく淡い緑色になる頃が目安です。果実全体の地色が抜けた状態ではやや遅い。
  - 2) 大玉から除袋を開始し、小玉や下枝・樹冠内部のものは上枝の除袋4～5日後に数回に分けて行う。最低でも上枝と下枝では生育差があるので2回程度に分けて除袋する。
  - 3) もも二重袋を使用したものは、3～4日程度早めに外袋のみ除袋する。
  - 4) 除袋時に、曇雨天が続くような場合は、除袋時期の目安より、2日程度早めに始める。
  - 5) 老木や樹勢の弱い樹は、数日早く除袋する。樹勢の強い樹は、除袋を遅らせる。
3. 着色管理
  - 1) 葉摘みは、着色ムラをなくするため果実に密着している葉を摘む。1果当たり5枚程度限度とする。摘み過ぎないように注意する。摘み過ぎは、着色・糖度に悪影響が出やすい。また肌荒れ・日焼け・軟化等、品質低下になる場合がある。※もも二重袋を使用した場合は、葉摘みはしない。
  - 2) 反射シートは、有袋品種で、除袋直後から使用する。無袋品種で収穫予定日の10～14日前位から使用する。概ね着色したら又は、収穫開始2日前薬剤散布前にシートを外す。
  - 3) 支柱立て、誘引を行い樹内部に日の光が入るようにする。
  - 4) 着色先行となり、早採りを助長するので、熟度をよくみて判断し収穫する。
4. 一重袋での除袋時期の目安 (あくまで目安です。今後の気象条件・自園の状況に合わせる)

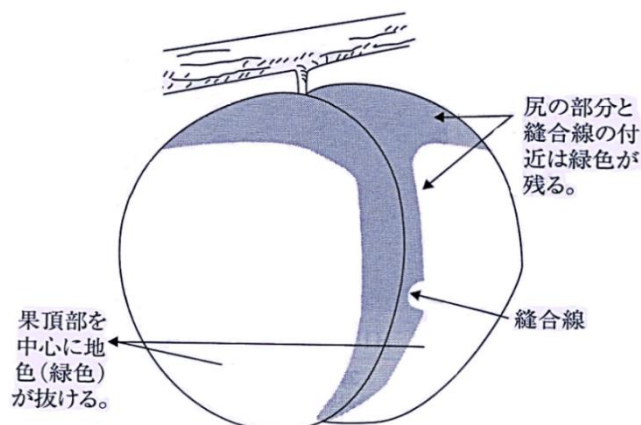


図1 果実の除袋目安

| 品 種   | 時 期      | 目安の指標            |
|-------|----------|------------------|
| 白鳳    | 7月初上旬頃   | <u>収穫7～10日前頃</u> |
| あかつき  | 7月上旬頃    | <u>収穫7～10日前頃</u> |
| 川中島白鳳 | 7月上中～中旬頃 | <u>収穫4～7日前頃</u>  |

※目安の指標：着色が容易な品種ほど除袋は遅めに。着色が困難な品種ほど早めとしてください。

◆もも・ネクタリン収穫前薬剤散布について **※必ず実施する。**

収穫前の重要な病害虫防除になるため、必ず実施する。特に降雨が多い場合は、影響が大きい。  
＜除袋後・無袋着色始め防除＞

1. 散布時期：有袋除袋後又は、無袋着色始め（収穫7～10日前頃） 実際散布月日 月 日  
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000以上

| 農薬名       | 使用倍率   | 調合量   | もも<br>収穫前 | ネクタリン<br>収穫前 | 病害虫                          |
|-----------|--------|-------|-----------|--------------|------------------------------|
| アプローチBI   | 1,000倍 | 100mℓ | —         |              | —                            |
| スクレアフロアブル | 3,000倍 | 33mℓ  | 前日        | 前日           | 灰星病・ホモブシス腐敗病                 |
| ⑩イカズチWDG  | 1,500倍 | 66g   | 前日        | 前日           | モモハダカ・ミカンキロアザミカ・シンカイムシ・ハダカシラ |

＜収穫開始2日前防除＞

1. 散布時期：収穫開2日前 実際散布月日 月 日  
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000以上

| 農薬名         | 使用倍率   | 調合量   | もも<br>収穫前 | ネクタリン<br>収穫前 | 病害虫                          |
|-------------|--------|-------|-----------|--------------|------------------------------|
| アプローチBI     | 1,000倍 | 100mℓ | —         |              | —                            |
| オンリーワンフロアブル | 2,000倍 | 50mℓ  | 前日        | 前日           | 灰星病・ホモブシス腐敗病                 |
| エクシレルSE     | 5,000倍 | 20mℓ  | 前日        | 前日           | モモハダカ・ミカンキロアザミカ・シンカイムシ・ハダカシラ |

＜共通留意事項＞

- 除袋直後（ほとんど果面に日照を受けない状態）は、薬害（褐色の流れサビ斑・縞状の着色不良）が出やすい。除袋後、少なくとも1～2日程度は空けて実施する。
- 「収穫前日」の使用時期は、収穫する開始24時間前までに散布が終了している必要がある。
- 果柄部へ薬剤が届くよう丁寧に散布する。
- 腐敗果を発見したら被害を拡大させないために、園外に持ち出すか除去し土中に埋める。
- スクレアフロアブルも代えて、ミギワ20フロアブル4,000倍（水1000ℓ当り25mℓ・収穫前日）を使用してもよい。
- イカズチWDGに代えて、アーデントフロアブル（水1000ℓ当り50mℓ・収穫前日）又は⑩スカウトフロアブル2,000倍（水1000ℓ当り50mℓ・収穫前日）又は⑩テルスターフロアブル3,000倍（水1000ℓ当り33mℓ・収穫前日）を使用してもよい。